



様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 6月 12日

埼玉県知事 大野 元裕 殿

提出者

住 所 埼玉県羽生市上村君堤根294番地
氏 名 埼玉日清食品株式会社
代表取締役 長谷川吉信
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 048-565-4730

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	埼玉日清食品株式会社
事業場の所在地	埼玉県羽生市上村君堤根294番地
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	0992 めん類製造業
② 事業の規模	資本金 3,000万円・売上高 52億円
③ 従業員数	187人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	製造ラインにおいて麺が金属探知機・ウェイトチェッカー通過時、麺の検品時の不適合品、生産中の機械のトラブル時のロスが発生し、産業廃棄物となる。 排出する産業廃棄物は、種類別(汚泥、廃プラスチック、ガラスくず、動植物性残さ、金属くず)に分類し、決められた廃棄(保管)場所にて保管し、各処分場にて、処分される。

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙参照 (NO. 1)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (2022年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ他
	排出量	901.75 t	834.84 t
	(これまでに実施した取組) 1. 各工程別手順書に従い、不適合品の発生減少に努める。 2. 日清食品グループとの連携を密にし、過剰生産による余剰品解体処理を減少させる。 ※動植物性残さ他の内訳 … 動植物性残さ; 766.68 t 廃プラスチック; 64.97 t 金属くず; 2.76 t ガラスくず; 0.06 t 廃油; 0.37 t		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ他
	排出量	892.73 t	826.47 t
	(今後実施する予定の取組) 機械設備メンテナンスを計画通り、実施し、トラブルによる廃棄量を減少させる。 ※動植物性残さ他の内訳 … 動植物性残さ; 759.01 t 廃プラスチック; 64.32 t 金属くず; 2.73 t ガラスくず; 0.05 t 廃油; 0.36 t		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
分別している産業廃棄物の種類 … 汚泥、廃プラスチック、ガラスくず、動植物性残さ、金属くず、廃油。
分別に関する取組 … 分別表示に従って、必ず使用者が所定の場所に廃棄するよう徹底する。

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
現状通り。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ他
	全処理委託量	901.75 t	834.84 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	901.75 t	834.84 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	55.56 t	79.56 t
	※ 動植物性残さ他の内訳 〔全処理委託量〕 動植物性残さ；766.68 t 廃プラスチック；64.97 t 金属くず；2.76 t ガラスくず；0.06 t 廃油；0.37 t		

〔再生利用業者への処理委託量〕

動植物性残さ；766.68 t

廃プラスチック；64.97 t

金属くず；2.76 t

ガラスくず；0.06 t

廃油；0.37 t

〔認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量〕

動植物性残さ；23.9 t

廃プラスチック；54.89 t

金属くず；0.4 t

廃油；0.37 t

(これまでに実施した取組)

前年度実績 再資源化率 (94%)

食品廃棄物のリサイクル率 (95%)

	② 計画	【目標】		
		産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ他
		全処理委託量	892.73 t	826.47 t
		優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
		再生利用業者への 処理委託量	892.73 t	826.47 t
		認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	55.00 t	78.75 t
<p>※ 動植物性残さの内訳</p> <p>〔全処理委託量〕 動植物性残さ；759.01 t 廃プラスチック；64.32 t 金属くず；2.73 t ガラスくず；0.05 t 廃油；0.36 t</p> <p>〔再生利用業者への処理委託量〕 動植物性残さ；759.01 t 廃プラスチック；64.32 t 金属くず；2.73 t ガラスくず；0.05 t 廃油；0.36 t</p> <p>〔認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量〕 動植物性残さ；23.66 t 廃プラスチック；54.34 t 金属くず；0.39 t 廃油；0.36 t</p> <p>(今後実施する予定の取組) 再資源化率(100%) 食品廃棄物のリサイクル率(100%)</p>				
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

埼玉日清食品(株) 環境マネジメントシステム組織図(図1)

発行日 2020年 3月 2日

